

北九州市立大学の新学部設置の経緯と今後の取組について

1 新学部設置の経緯

北九州市立大学では、国の方針や市内企業のニーズ等を踏まえ、新たにデジタル分野に関する教育プログラム等の準備を進めていた。

そのような中、令和5年4月に、国がデジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向け、新たな学部等の設置を促進するための「大学・高専機能強化支援事業」を創設した。

このため、市立大学では、新学部の設置を目指すこととし、令和5年5月に国の支援事業に助成金の申請を行い、7月に選定され、9月に助成金の交付決定を受けた。

(1) 新学部の概要（予定）

- ①学部名（仮称）情報イノベーション学部
- ②入学定員 118名（収容定員 472名）
- ③学科名・養成する人材
 - ア）（仮称）情報エンジニアリング学科（入学定員68名）
⇒情報工学の先端技術を駆使する高度人材
 - イ）（仮称）共創社会システム学科（入学定員50名）
⇒GX推進や地域社会の課題解決に寄与するデジタル人材

(2) 大学・高専機能強化支援事業の概要

- ①支援事業の内容
 - ・施設整備費（設計費も含む）の最大3／4を国が補助
 - ・残りの1／4を自己負担
- ②支援事業の主な流れ
 - ①申請 ⇒ ②採択 ⇒ ③交付決定 ⇒ ④候補地の検討・場所の決定 ⇒
 - ⑤設計 ⇒ ⑥工事 ⇒ ⑦学部開設

2 大学における候補地選定の経過

令和5年7月の支援事業の選定を受け、その後、大学において新学部の施設要件等をもとに、設置場所について、調査、検討を行った。

(1) 大学が求める要件

- ①施設要件
 - ・延べ床面積が、概ね4,000㎡（収容定員：472名）
 - ・教室に採光できる基準値以上の窓があること【建築基準法】
 - ・建物が耐火建築物であること【建築基準法】
- ②新学部運営に必要な要件
 - ・地元のIT企業等との連携（ジョブ型インターンシップ等）が促進できる小倉都心部での立地であること
 - ・北方キャンパスとの移動が容易であること
 - ・交通アクセスが良好で、学生にとって利便性の高い環境であること
- ③その他
 - ・開設時期：令和9年4月 など

(2) 候補地に関する調査

①ひびきの、北方の既存キャンパスでの検討

- ・北方キャンパスでは、現状スペースに余裕がなく、新たな用地もない。
- ・ひびきのキャンパスについては、建設の可能性はあるが、新学部の特性を生かすためには、小倉都心部が最適と判断。

②小倉都心部での調査

- ・小倉都心部の既存の施設、十数か所を対象に調査を実施したが、大学が求める要件を満たす候補地がなかった。

(3) 大学からの要望

令和6年1月30日に、市に対して、新学部設置に関する支援の要望書提出

(4) 旦過市場からの要望

大学から市への要望書提出の報道を受け、旦過市場の役員から、市建設局に対し、旦過地区のBC地区への新学部の設置の可能性について、相談があった。

市場関係者との調整や2月26日の大学と市場関係者での意見交換会を経て、3月15日に大学及び市に対し、新学部設置に関する要望書が提出。

3 現在の検討状況

(1) 旦過市場で整備する場合の施設整備費（現時点の概算）

	全体事業費（概算）	助成金（国）	自己負担額
施設整備費	約18億円	13.5億円	4.5億円

※自己負担額については、大学が寄付等を活用してできる限り捻出し、不足分を市が支出。

※全体事業費は、交付決定を受けた概算金額で、基本設計の結果、変更となる可能性がある。

※あわせて、土地の取得費用が必要となり、BC地区の地権者と案分して支弁する予定。

（概算で約2億円を想定）

(2) 大学で試算した経済効果

新学部を小倉都心部に新設した場合の経済波及効果は、約32億円（約10年間）が見込まれる。

(3) 旦過市場で整備する場合のスケジュール（案）

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
大学での施設整備等	基本設計	実施設計 用地取得	建築工事	新学部開設 R9年4月 ～
市	令和7年度 当初予算議案上程 (実施設計・用地費)	令和8年度 当初予算議案上程 (建築工事費)		

※令和6年度の基本設計は、助成金及び大学の自主財源での対応を予定

※設置場所が正式決定後、市場及び大学で協定締結（所有の仕方や整備費用の分担等を決定）

※令和8年度に新学部設置にかかる国の許認可申請手続きを実施

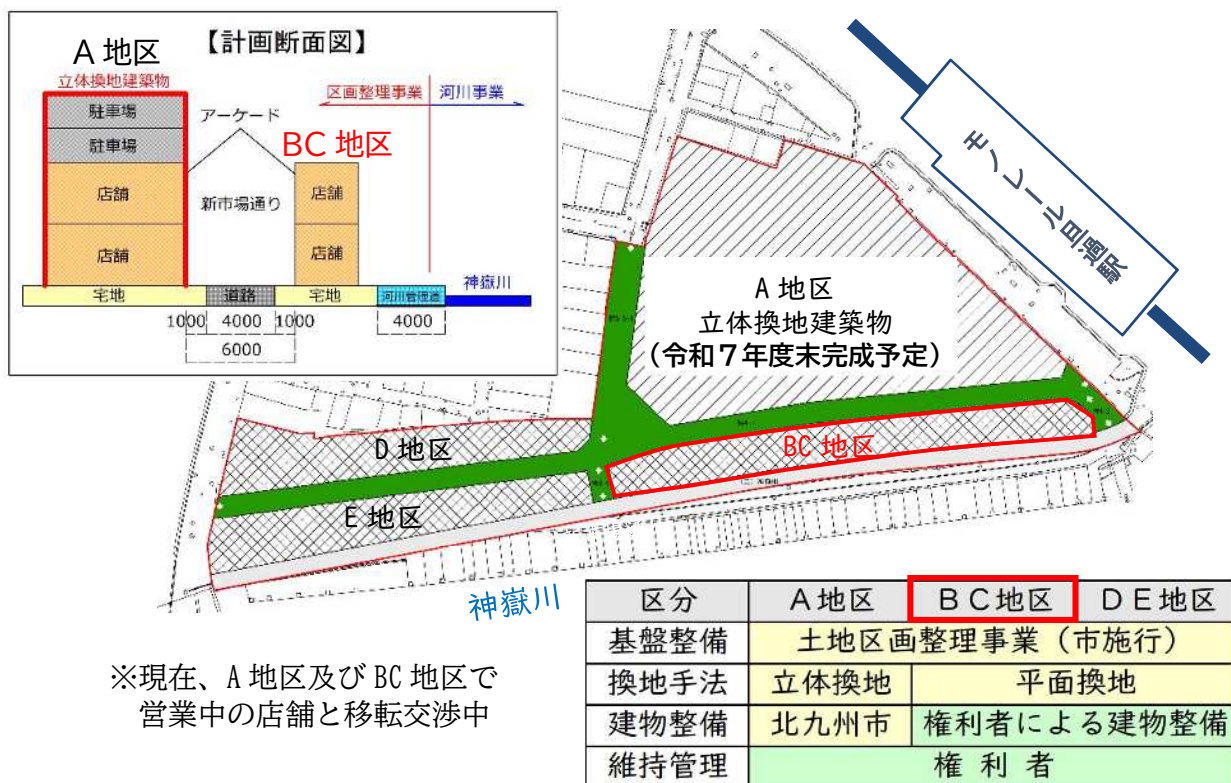
4 今後の予定

大学は、新学部の設置場所を、旦過市場とすることを5月末までに正式決定する意向。

旦過地区再整備事業に関する状況報告（案）

1 旦過地区再整備事業（令和9年度完了予定）の概要

旦過地区再整備事業は、旦過地区に隣接する神嶽川の氾濫による浸水被害や木造建物の密集・老朽化など、地区が抱える防災面の課題を解決するため、神嶽川の「河川改修事業」と旦過地区の「土地区画整理事業」を一体的に実施し、防災安全性の向上を図るとともに、小倉都心部のさらなる賑わい創出を目指す。



2 北九州市立大学の新学部設置の要望等の経緯について

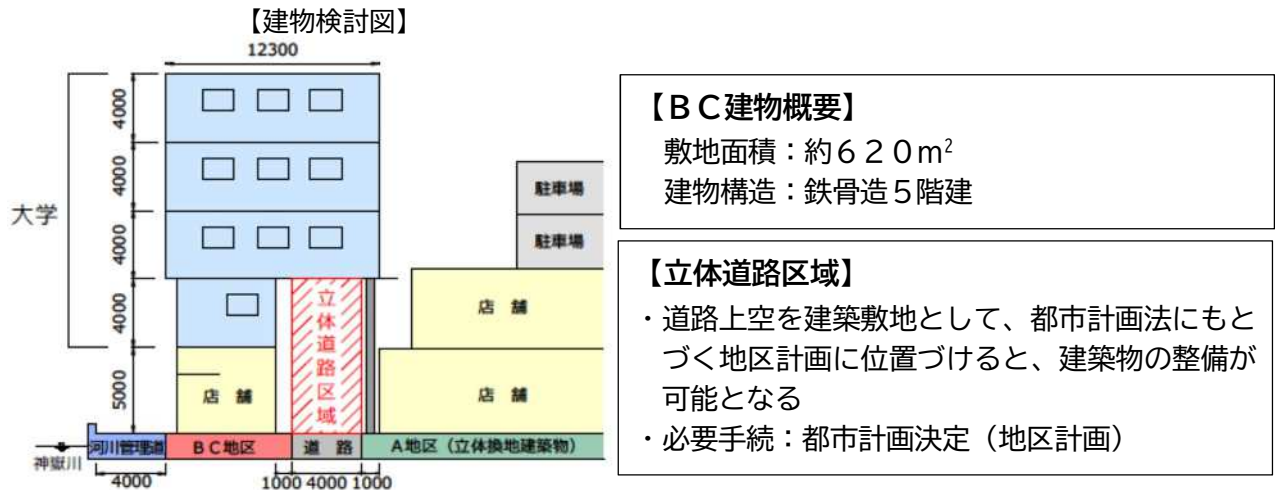
- 令和6年1月30日 大学から市へ「北九州市立新学部設置について」要望書提出（「小倉都心部での設置」について、市に協力を要請）
- 令和6年1月31日 旦過市場役員が、市建設局に大学誘致の相談（BC地区が新学部の候補地となる可能性について）
- 令和6年2月26日 旦過市場との大学連携等に関する意見交換会（旦過市場主催、大学・市建設局参加）
- 令和6年3月12,13日 旦過市場が、臨時総会で大学誘致を意思決定
- 令和6年3月15日 旦過市場が、大学及び市へ要望書提出「旦過市場の今後のにぎわいづくりにかかる北九州市立大学との連携強化について」

3 旦過地区再整備区域における北九州市立大学の整備イメージ

(1) 北九州市立大学 新学部概要

学部名称 情報イノベーション学部

入学定員 118名（収容定員472名） 開設時期 令和9年4月予定



4 BC地区へ新学部が設置される場合の事業への影響

(1) 再整備事業の事業費

BC地区は権利者による建物整備であるため、再整備事業費は変更なし。

(2) 事業スケジュール

旦過地区再整備事業は、現計画どおり令和9年度末の完成を予定

5 期待される効果

(1) 小倉都心部のにぎわい創出

大学関係者約500名に加え、関連企業の都心回帰が期待できる

(2) 旦過市場と北九州市立大学の連携強化

- ・多くの若者が長期間にわたり、旦過市場と関わりを持ち、「次の100年に旦過市場を繋いでいく」ことを目指す、大きな力となる
- ・デジタル化への連携や大学施設の利用、学生のイベント参加など、幅広い連携が期待できる

6 今後のスケジュール

令和6年度	既存建物解体/埋蔵文化財調査/立体換地建築物整備着手（A地区）
令和7年度	立体換地建築物整備完了（A地区）
令和8～9年度	D・E地区整備、BC地区建物整備（新学部開設）